第1号様式・その1（第4条関係）

第634号
受 30.9.-3 付
議会事務局

戸田市議会研修・視察報告書（会派名： 平成会）

H.30年 9月 3日

三浦芳一 議長 様　　報告者氏名 峯岸義雄

実施日	平成30年 8月24日（金） ～ 平成30年 8月25日（土） 1泊2日		
参加者	1 山崎雅俊	6	
	2	7	
	3	8	
	4	9	
	5	10	合計 1 人
視察先・目的	視察先	目的	
	1 青森県青森市（リンクモア平安閣市民ホール）	第34回全国自治体政策研究交流会議青森大会及び第32回自治体学会青森大会参加	
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
宿泊場所	1 ホテルルートイン青森駅前		
	2		
	3		
費用	宿泊費（1泊 食） 8,500 円	夕食代 円	
	交通費 32,380 円	昼食代 円	
	その他 5,000 円	合計 45,880 円	

視察報告　平成会　山崎雅俊

（期　　日）　平成３０年８月２４日（金）～２５日（土）　１泊２日

（行　く　先）　青森県青森市

（視察テーマ）　第３４回全国自治体政策研究交流会議　青森大会および
第３２回自治体学会青森大会参加

（視察内容）

＊第１日目

１３：００　開会

１３：１０　基調講演

「人は財（たから）～あおもりを愛するひとづくり～」

青森県知事　三村申吾　氏

１４：３５　パネルディスカッション

「人口減少時代における地域の明日を考える」

～地域力・地域資源を活かすしごと創りへの挑戦～

＊コーディネーター

西村幸夫（自治体学会理事長、神戸芸術工科大学教授）

＊パネリスト

小野寺晃彦（青森市長）

内海弘次（内海青果代表取締役）

木村尚子（ｍｉｚｕｉｒｏ代表取締役）

大崎陽一（あおもり地域ビジネス交流センタープランナー）

１６：３５　閉会

＊第２日目

０９：３０　開会

１０：００　基調講演

「地域の価値を確認し、未来を展望する」

法政大学名誉教授　岡崎昌之　氏

１３：００　＜研究発表セッション＞

地方議会改革の成果の現れ方の違い

１４：３０　＜分科会＞

だれもが「住民」として守られるために

～避難者・困窮者の立場から～

１６：１５　閉会

「地域が自主自立をしていくためには、地域を愛する人づくりが重要。
資質・能力・マインドを備えたチャレンジ精神あふれる人材の育成が必要である。」

第82号
受 31.4.-3 付
議会事務局

第1号様式・その1(第4条関係)

戸田市議会研修・視察報告書(会派名： 平成会)

H31年4月3日

遠藤英樹 議長 様　　報告者氏名 峯岸義雄

実施日	平成31年3月28日(木) ～ 平成 年 月 日( ) 泊 日	
参加者	1 伊東秀浩 2 小崎雅俊 3 斉藤直子 4 峯岸義雄 5 林 冬彦	6 7 8 9 10 合計 5人
視察先・目的	視察先	目的
	1 WTCコンファレンスセンター 38階	・産官学民と連携した戸田市の教育改革
	2 東京法令出版(株)	・「共感」を呼ぶ政策づくりの秘密
	3	
	4	
	5	
	6	
宿泊場所	1 2 3	
費用	宿泊費(泊 食) 円	夕食代 円
	交通費 3,900 円	昼食代 7,150 円
	その他 150,000 円	合計 161,050 円

平成31年4月3日（水）

平成会視察研修報告「産官学民と連携した戸田市の教育改革」

研修名：先進自治体に学ぶ人口減少時代の地域政策講座
「産官学民と連携した戸田市の教育改革」
実施日：平成31年3月28日（木）午前
主　催：東京法令出版株式会社
会　場：WTCカンファレンスセンター（東京都港区浜松町）

内　容：
人口減少時代と言われる中において、人口増加の傾向がみられる埼玉県戸田市。人口増加の要因のひとつとして、戸田市で行われている「教育改革」の存在は大きい比重を占めるものと推測される。では、この戸田市において、どのような「教育改革」が進められているのか、その現状とその背景にある考え方について学ぶ研修講座であった。テキスト（別途添付）の内容に従い、以下の説明を受けた（内容はテキストを参照されたい）。

1　教育改革の視点と課題
2　学校や教育委員会の現状
3　産官学民との連携と新学習指導要領
4　戸田市が多くの産官学と連携できているわけは
5　各学校での非認知スキルの育成
6　開かれ活性化し、学び続ける教育委員会（教育委員会会議の運営上の工夫）
7　戸田市いじめ根絶「ピース」プロジェクト（平成30年度重点施策）
8　戸田市PEERカリキュラムの開発
9　エビデンスに基づく教育施策の推進
10　障害のある人もない人も共に学ぶインクルーシブ教育システムの構築
11　産学連携の充実
12　チーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業
13　AI時代の教室と学び
14　教育や教室を科学する（匠の技可視化プロジェクト）

考　察：

戸田市は、平成30年6月15日に閣議決定され、2020年に始まる「第3期教育振興計画」を文部科学省の協力を得ながら先取りし、2030年以降をも見据えた教育改革を進めていることがわかった。

戸田市では、超スマート社会（Society5.0）時代が到来する流れにおいて、
① AIの代替は難しい力などの育成
② 産官学と連携した知のリソースの活用
③ 教室や授業を科学する（教育とテクノロジーの融合、産官学民と連携した産先端技術やデータサイエンス等を教室の中で積極的に活用し、学びの効率化や更なる質の向上を図る）
といった先進的な取組が行われているが、

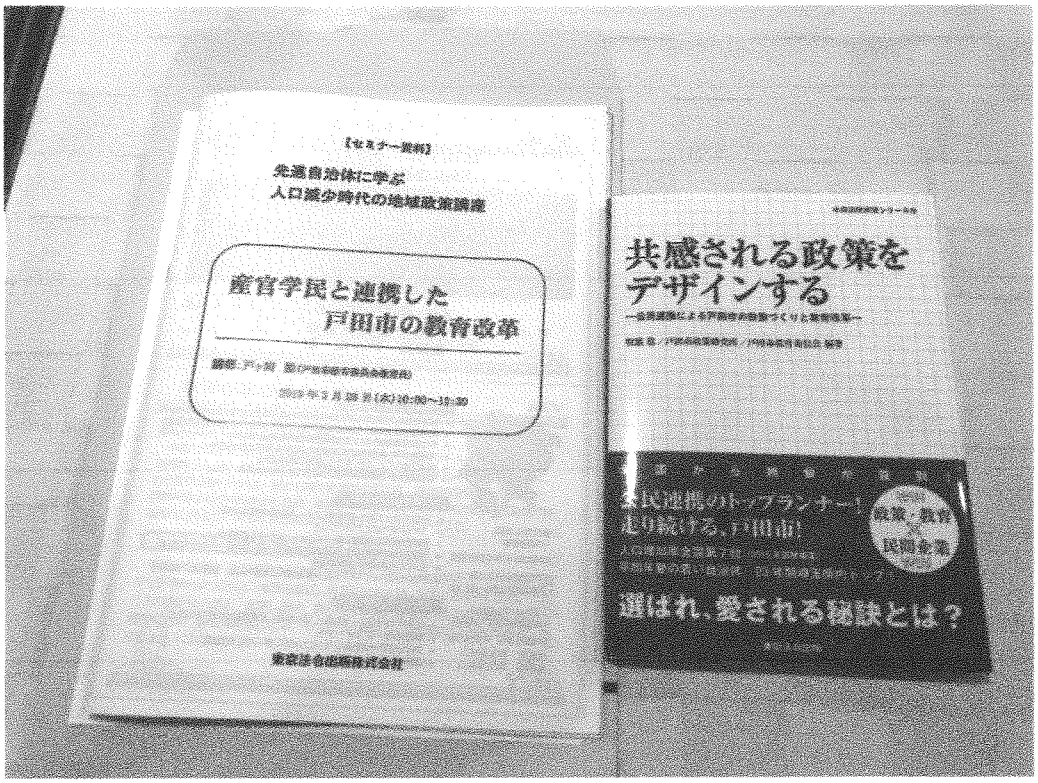
「子供たちには、社会の要求する力だけでなく、新しい社会経済システムを創り出す力が求められており、未来社会は、教育が社会をリードすべき時代になる。一人一人の豊かな人生と、成長し続け、安心できる社会を実現できるのが教育。また、教育を充実し質を高めることは、地方創生とまちづくりの有効な手段にもなる。教育による人づくりこそが、サスティナブルシティを創る。」

上記のような視点が教育改革の核に据えられているからこそ、戸田市の教育は単なるカリキュラム改革にとどまらず、地域における教育システム、さらには地方創生にまで繋がっていく改革になっているのだという印象を持った。

したがって、戸田市のこれからの施策は、教育施策と連携・連動するよう、構想、計画していくことが望ましいと考えられる。市政と教育行政はどちらかが上下にあるという関係でなく対等であることから、連携・連動・協働するという視点で市政・教育行政を進めて行くことが、これからの難しい時代において、戸田市が選ばれ生き残っていくために欠かせないということが予感できた。

（林冬彦）

（撮影者：林冬彦）


【セミナー資料】
先進自治体に学ぶ
人口減少時代の地域政策講座
産官学民と連携した
戸田市の教育改革
共感される政策を
デザインする
選ばれ、愛される秘訣とは？

平成31年4月3日（水）

平成会視察研修報告「『共感』を呼ぶ政策づくりの秘密」

研修名：先進自治体に学ぶ人口減少時代の地域政策講座
「『共感』を呼ぶ政策づくりの秘密」
実施日：平成31年3月28日（木）午後
主　催：東京法令出版株式会社
会　場：WTCカンファレンスセンター（東京都港区浜松町）

内　容：
人口減少時代と言われる中において、人口増加の傾向がみられる埼玉県戸田市。人口増加の要因のひとつとして、戸田市で行われている「共感」を呼ぶ政策づくりの存在がある。では、この戸田市において、「共感」づくりについて、どのような取組がなされているのか、その現状とその背景にある考え方について学ぶ研修講座であった。テキスト（別途添付）の内容に従い、以下の説明を受けた（内容はテキストを参照されたい）。

1　戸田市の紹介
2　自治体シンクタンク「戸田市政策研究所」
3　政策形成力を高める仕掛け　－　戸田市政策研究所の機能と事業　－
4　定住人口獲得に向けたシティプロモーション
5　まとめ

考　察：

戸田市は、調査研究機能と政策支援機能をもつ自治体シンクタンク「戸田市政策研究所」を設置したが、「職員の政策形成力の向上を目的」として事業を行っていることが市職員の資質を高め、結果的に市の施策力向上に大きく貢献していることが実感できた。

特に、職員を対象とした自主的な勉強会である「戸田ゼミ」の開催、連携する

大学等での寄附講座の開催が若手職員の能力開発に繋がっており、そこで能力開発された職員を中心に、政策企画・政策研究が行われ、「インプット→検討・考察→アウトプット」という流れを通じて、具体的な結果に繋がる政策に繋がっている。

人口減少時代においても人口増を果たしている戸田市であるが、「居住地型」のシティプロモーションに自らを位置づけ、

①明確なターゲティング（都内勤務の20代30代で住宅購入を考えている世代・都内勤務で子育てを楽しみたい夫婦）
②人を呼び込む新たな仕掛け（都内で住宅購入を検討している子育て世代への発信）
③コア・コンピタンスによる差別化（戸田市の教育）
④外部との積極的な連携（産官学民連携プラン）
⑤インナープロモーションの強化

を行うことで成果を挙げている。

依然として人口増を果たしているという結果を考えると、戸田市政策研究所の行っている取り組みの路線は間違ってはいないと判断できる。特に午前中に受講した「戸田市の教育改革」が、人口増を図っていく上で重要な「他都市との差別化要因」であることがわかった。

今後、市の活力を維持し、また次世代へと継承していくためにも、インナープロモーションによって市民の共感を深めていく取り組みは重要だと思われる。我々市議会議員としても、その視点をもって議会活動に取り組むことが必須であると実感した。

（林冬彦）

戸田ゼミ・寄附講座の様子
23

第83号
受 31.4.-3 付
議会事務局

第1号様式・その1（第4条関係）

戸田市議会研修・視察報告書(会派名： 平成会)

H.31年4月3日

遠藤英樹 議長 様　　報告者氏名 峯岸義雄

実施日	平成31年3月29日(金) ～ 平成 年 月 日( ) 泊 日	
参加者	1 斉藤直子 2 3 4 5	6 7 8 9 10 合計 1 人
視察先・目的	視察先 1 WTCコンファレンスセンター 38階 2 東京法令出版(株) 3 4 5 6	目的 ・災害時における議会・議員の役割と取組み
宿泊場所	1 2 3	
費用	宿泊費(泊 食) 円	夕食代 円
	交通費 780 円	昼食代 円
	その他 15,000 円	合計 15,780 円

セミナー「災害時の議会・議員の取組み」

講師： 鍵屋 一教授 (跡見学園女子大学観光コミュニティ学部)

場　所：WTCコンファレンスセンター　　14:00~16:30

参加者：斎藤直子

【内容】

- 災害時の災害対策と個人情報
- 東日本大震災時→避難行動支援者名簿渡さなかった→市町村は独自の判断を任されている→ 三条市は、名簿公開拒否する場合は「嫌だ」という書き込みとした→殆どが、書き込まず名簿公開となり命を守る方向へ

- 現場で決めるルールが必要　(決めすぎると融通が効かない。余裕を持たせる)
- 防災計画をつくるのは、自分たちのためではなく、今後の人たちのため

- 国交省の法律だけでは、福祉の継続するためのBCPができていいない　今後、高齢社会の災害として対応を意識。

《 災害時における、議会としての課題と対策についてワールドカフェを開催 》

3～4人のグループを作り、大災害後の議員、議会としての問題点や課題を書き出し、それぞれについて対策を考え、まとめる。その後、グループの1人を残し、他のテーブルへそれぞれ分散して他のグループと交流して、自席に戻る。それぞれが、得た情報をグループメンバーに戻し、「大災害時に議会、議員が効果的な対応をするために何をすべきか」具体的なアイディアを3~5点に絞り、記入。その後、その内容を各テーブルに並べて、皆で共有、共感をしあう。

【所 感】

議会の存在は大きいが、災害対策本部のじゃまになってはならない。特に、何がなんでも事業継続という感覚は、人命救助をはじめ優先順位を見失いがちになる。

じゃましないためにも、議員活動のルール、特に議長への情報一元化をし、各地域にて積極的に活動し、情報提供を行政、市民双方に行うことが求められると痛感した。ただし、無駄やエゴは許さず。

国や県との政治的調整も可能な範囲で行い、議長のリーダーシップは重要と感じた。

幸い、戸田市議会は、災害時発生時の対応要領を平成26年12月より施行し、議員行動マニュアルを作成している。が、セミナー当日、わかっている気になっていたが、咄嗟の質問等の反応が悪い自分に気がついた。危機感が薄れている事を思い知らされた。常日頃より、議会の防災意識を保つためにも防災訓練も含め、議題に上げていくことは大切だと改めて考えさせられた。

また、行政批判は、住民の行政への不信感につながり、分断をおこし、応急対策への住民協力が得にくくなる。復興も遅れる要因ともなる。不満があっても、平時と異なり、心を合わせ、同じ方向性で応急対策期を乗り越える事が大事だと肝に命じた。人を健康で幸福にするのは良い人間関係に尽きる！